

国際会議から 第30回状態監視と診断に関する国際会議

本会議は状態監視や診断に関する国際会議で、1988年に初回会議が開催されて以降、毎年開催されており、2010年には奈良でも開催されています。今年の会議はイギリスのプレストンで開催され、66件の発表が行われました。筆者も状態監視・診断・状態予測・健全性管理のセッションで、「営業線で取得したパンタグラフ接触力による



基調講演の様子



会議会場のホテル

トロリ線の静高さの推定」の発表を行いました。質疑では提案した推定手法に必要とされる精度に関する質問などがあり、有意義なディスカッションができました。また、基調講演では畳み込みニューラルネット



コーヒープレイクの様子



湖水地方のディナークルーズ船上の筆者

白田隆之
鉄道力学研究部
集電力学研究室
室長

ワークや再帰型ニューラルネットワークなどディープラーニングに関する興味深い講演などもありました。個人的に最も印象的だったのが、中国からの発表の多さで、一般講演の31%が中国からの発表でした。一方、日本人の参加者は私だけで、中国の台頭を改めて痛感しました。

正式名称：30th International Congress & Exhibition on Condition Monitoring and Diagnostic Engineering Management

開催国：イギリス(プレストン)

期間：2017/7/10-13

主催：COMADEM International

開催頻度：年1回

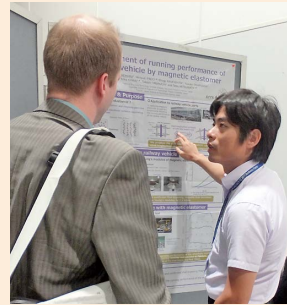
次回開催予定：2018年7月 南アフリカ

ホームページURL：<http://www.comadem.com/>

国際会議から 第2回材料加工応用と研究技術の最前線に関する国際会議

FIMPART (International Conference on Frontiers in Materials Processing Applications, Research & Technology) は、ナノ材料から複合材料、バイオマテリアル、燃料電池・水素貯蔵技術に至るまで、さまざまな分野の先進材料に関する研究成果を情報交換する国際会議です。本会議のサブタイトルに“Enabling Innovation”を掲げているように、材料分野の垣根をなくすことによるイノベーションを目指しています。2015年に第1回がインド・ハイデラバードで開催され、今回のフランス・ボルドーでの開催が第2回となります。

本会議では、基調講演を除いて口頭発表が471件、ポスター発表が51件あり、参加者は51ヶ国から500名を越えていました。筆者は、磁場に応じて硬さが変化する磁性エラストマーと呼ばれる材料を鉄道車両へ適用することを目指した研究についてポスター発表し、参加者と有意義



ポスター発表中の筆者

梅原康宏
車両構造技術研究部
走り装置研究室
主任研究員

なディスカッションを行いました。

今回の開催地であるボルドーはバス、トラムなど公共交通機関が整備されており、市内移動はとても快適でした。なお、トラムは、景観への配慮が必要な歴史地区では地表集電方式、郊外に入ると架線集電方式で運行されていました。



会場のボルドー
コンベンションセンター



ボルドー市内のトラム

正式名称：2nd International Conference on Frontiers in Materials Processing Applications, Research & Technology
開催国：フランス(ボルドー)
期間：2017/7/9-12
主催：Materials Research Society, Singapore
開催頻度：2年に1回
次回開催予定：2019年 開催地未定
ホームページURL：http://www.fimpart.org/2017/wp/